

「高知版学びの機会充実ネットワーク」構築事業

背景
と
目的

◇全日制・定時制・通信制課程の生徒の進路保障に向けた学びの機会のネットワークの構築

本県ではこれまで遠隔教育の実践と拡充を図ってきたが、本事業では遠隔授業や通信教育を活用しながら、教育資源に限りがある中山間地域の小規模高校を中心に、全日制・定時制・通信制課程の生徒や不登校生徒の進路保障に向けた取組を推進し、配信科目の拡充等生徒の学びの機会のさらなる充実を図る。また、遠隔教育により専門教員からの授業や習熟度別授業を実現し、生徒の学びの質の保障を図り、遠隔授業における工夫や実践について、県内外の教員との情報交換や実践研究を進める。

1. 遠隔教育に関する取組の概要と成果

I 遠隔授業

構成校8校に対し、数学、理科、英語、情報の遠隔授業（計22講座、週61時間）を配信
→ 生徒の自律的な学びを促すアプローチの研究と、知見を基にした暗黙知の文章化による共有

II 授業外の活動

【遠隔補習】 ・大学進学対策面接や進学対策補習の実施
・英語資格試験2次対策、公務員試験対策、危険物取扱者試験対策の実施

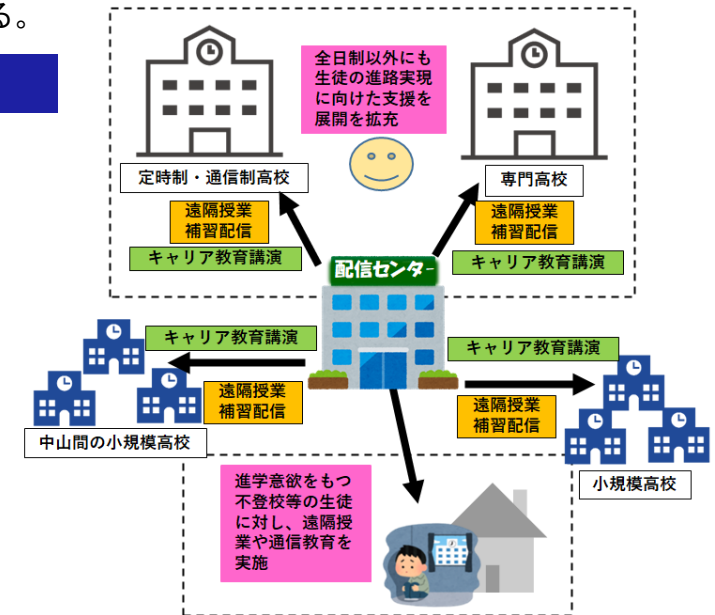
【キャリア教育講演会】、【地域課題探究成果発表会】

III 生徒の学習ニーズに応じた授業配信についての取組

遠隔授業受講生徒へのアンケート、学校・管理職への調査によるニーズ把握
→ 令和7年度より、地理歴史を新たに配信する。

IV 受信側体制の研究

・「巡回型」「教員外の職員」の活用について、構成校に対し説明会開催
・「教員外の職員」の活用の実施
→ 令和7年度は、授業の質の向上につながる有り様を再検討する。



2. 通信教育に関する取組の概要と成果

I 通信制課程の生徒のニーズに応じた英語資格試験2次対策の実施 遠隔補習の受講 → 合格

II 不登校生徒の進学支援について研究

高知県心の教育センターや高知市教育研究所等の訪問

遠隔授業推進プロジェクトチーム会での検討

→ 令和7年度より、不登校生徒の進学支援に係る遠隔授業や通信教育の活用について各校に周知する。対象生徒がいれば、試行的に支援を実施する。

3. 実施体制

管理機関：本事業は、遠隔授業推進プロジェクトチーム会を核として実施する。

中心拠点：遠隔授業配信センター

構成校：室戸高校、中芸高校、嶺北高校
佐川高校、窪川高校、橋原高校
大方高校（全日制・通信制）、清水高校

4. 今後の課題と取組

I 遠隔授業

・受信側立会者の「巡回型」を実施し、受信体制の研究を進める。
・専門高校等、新たに遠隔授業を実施する学校を掘り起こし、構成校を増やす。

II 通信教育

・不登校生徒の進学支援について、対象とする生徒を絞り込む。
・添削の実施に係る具体的業務を洗い出し、対応を検討する。
・在籍校との連絡・調整等に係る中心拠点の体制について研究する。